附　録

附録①　カリキュラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56

附録②　高校 1～２年生用モデル教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・81

附録③　高校３年生用モデル教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143

附録④　専門学校用モデル教材　就活演習・・・・・・・・・・・・・・・219

附録⑤　e ラーニング教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・245

附録⑥　実証講座アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・265

附録⑦　教員研修教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・295

附録①　カリキュラム

高専連携事業　ビジネス分野（商業科対象） 高校1年生用カリキュラム

主な想定対象校：商業科高校

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜ビジネス分野の目標＞

・ビジネスの振興による地域の発展や課題について自ら学び、地域社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む力を養う
・職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける

＜１年生の目標＞

・多角的に情報を集め、学んだことや経験と関連付けて自分の意見を述べる
・さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について理解し、まとめる

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「総合的な探究の時間」及び「情報Ⅰ」
コマ数	最大21コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定
指導方法	一人ひとりが豊かな勤労観・職業観を身につけ、フィールドワークを通じて、地域社会に関心を持ち、さまざまな課題の解決に取り組むことができるよう指導・支援する ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校１年生用のモデル教材を活用する

＜1年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	ビジネス基礎	2	オリエンテーション	○	◎		◎		＊◎主担 ○支援
	ビジネス基礎	2	ビジネスマナー	○		◎		◎	
	ビジネス基礎	10	職業人講話	◎	◎		◎		
	ビジネス基礎	1	マーケティング	◎	◎		◎		
	ビジネス基礎	6	フィールドワーク	◎					

＜学習内容例＞

テーマ	内容
オリエンテーション	授業紹介/アイスブレイク
ビジネスマナー	講義・ワーク・実践
職業人講話	事前調べ学習/講話/振り返り　※Webデザイン、SE、観光、アナウンサー
マーケティング	講義・ワーク
フィールドワーク	事前確認/フィールドワーク/振り返り

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバランスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・高校入学初期にキャリア基礎や職業人の話に触れることで、将来や進路について主体的に考える土台を形成する
・コミュニケーション、マナー、表現方法などを学び、社会や学習の場で求められる基本的な力を身に付ける
・職業人講話を通じて、地域に根ざした多様な仕事や専門分野を知り、視野を広げる</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・キャリア基礎で土台をつくり、職業人講話で視野を広げ、映像制作で表現につなげる流れを重視する
・ワークや意見交換、発表を取り入れ、生徒の主体性を引き出す
・専門分野の知見を取り入れ、実社会につながる具体例を用いて学習の理解を深める
・映像制作においては、コンセプト設計から撮影・編集・発表までを体験させ、考えを分かりやすく伝える力を養う</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><td></td><td colspan="2">講座前</td><td>実施期間中</td><td>実施後</td></tr>
<tr><td rowspan="2">日程</td><td>3～4ヶ月前</td><td>1～2週間前</td><td>当日</td><td rowspan="2">1週間後</td></tr>
<tr><td>打合せ1</td><td>打合せ2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">確認事項</td><td>・実施日</td><td>・構成</td><td></td><td>・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>・テーマ</td><td>・評価観点</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・教室</td><td>・指導ポイント</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・使用機器</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・事前アンケート要否確認</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">準備物</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">・事前アンケート</td><td>・教材</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
<tr><td>・フィードバック</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校・企業との確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・評価観点
・指導ポイント
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）
・講師駐車場・控室</td></tr>
<tr><td>実施期間中の運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保など）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度チェック）</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理</td></tr>
</table>

高専連携事業　ビジネス分野（商業科対象） 高校2年生用カリキュラム
主な想定対象校：商業科高校
＜高専連携事業における教育目標＞
・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める ・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する ・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する ・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する
＜育成を目指す資質・能力＞
・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力 ・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力 ・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力
＜ビジネス分野の目標＞
・ビジネスの振興による地域の発展や課題について自ら学び、地域社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む力を養う ・職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける
＜2年生の目標＞
・ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける ・ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う
＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「ネットワーク活用」
コマ数	最大11コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定。
指導方法	情報収集、整理、分析、表現に関する思考力、判断力、表現力を身につける学習活動において、適切なデータを収集し、適切な方法で整理・分析・表現できるよう指導・支援をする ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、ITでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校2年生用のモデル教材を活用する

＜2年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	ネットワーク活用	10	データ分析	○					＊◎主担 ○支援
	ネットワーク活用	1	専門学校生講話	○	◎		◎		

＜学習内容例＞

テーマ	内容
データ分析	主にExcelを活用したグループ学習　データ収集～分析～グラフの作成～プレゼンテーション
専門学校生講話	専門学校生によるプレゼンテーション（高校時代の進路選択や現在の専門学校の生活について）

＜必要機材等＞
・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・デジタル化が進む地域産業や企業活動に対応できるよう、データを収集・分析・活用する基礎的な力を育成する
・商業科で学ぶ情報処理・ICT活用の学習を、データ分析という実践的内容に発展させ、学習内容の深化を図る
・一タに基づいて考察し、根拠をもって判断・提案するプロセスを通じて、論理的思考力と課題解決力を育成する
・体系的な指導や専門学校生の講話を通じて、IT・データ分野の学びと将来像を具体的に理解させる</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・分析手法だけでなく、データの見方、注意点、情報モラルなど、現場で求められる視点を取り入れる
・分析結果の共有や振り返りを通じて、知識・技能だけでなく、考え方や学びのプロセスを定着させる
・データ分析を学ぶ専門学校生の体験談を聞く機会を設け、学習内容と進学後の学び・将来の職業を具体的に結び付ける</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><td></td><td colspan="2">中長期連携講座前</td><td>実施期間中</td><td>実施後</td></tr>
<tr><td rowspan="2">日程</td><td>3～4ヶ月前</td><td>1～2週間前</td><td>随時</td><td rowspan="2">1週間後</td></tr>
<tr><td>打合せ1</td><td>打合せ2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">確認事項</td><td>・実施日</td><td>・構成</td><td>・理解度</td><td rowspan="6">・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>・テーマ</td><td>・評価観点</td><td>・習熟度</td></tr>
<tr><td>・教室</td><td>・指導ポイント</td><td>・課題提出状況</td></tr>
<tr><td>・使用機器</td><td></td><td>・スケジュール</td></tr>
<tr><td>・事前アンケート要否</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・中間発表・成果発表</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">準備物</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">・事前アンケート</td><td>・教材</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
<tr><td>・フィードバック</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・中長期連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校との確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ・担当者）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・外部支援講師（追加支援）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・評価観点・指導ポイント
・中間発表・成果発表の実施有無
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）</td></tr>
<tr><td>実施期間中の運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保等）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度・習熟度・課題提出状況のチェック）
・中間発表会・成果発表会</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理
・学内への成果報告</td></tr>
</table>

高専連携事業　ビジネス（IT）分野 高校3年生用カリキュラム

主な想定対象校：高等学校（商業科）

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜ビジネス分野の目標＞

・ビジネスの振興による地域の発展や課題について自ら学び、地域社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む力を養う
・職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける

＜3年生の目標＞

一連の業務を実践的に行い、商業活動に必要な基本的な知識と技術を総合的に身につけ、必要な業務を合理的かつ能率的に処理する能力と態度を養う

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「総合実践」
コマ数	最大36コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定
指導方法	グループワークを通じて、必要なコミュニケーション能力、協調性、計画的に実行する能力を育てられるよう指導・支援をする ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校3年生用のモデル教材を活用する

＜3年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	＊◎主担 〇支援 ※基本的には高等学校教員が進行し、専門的な知識・知見が必要な際に、専門学校や企業等が参加
実施項目	総合実践	36	動画作成	◎	○	○	〇	〇	

＜学習内容例＞

テーマ	内容	
動画作成	・番組の進行役(ナビゲーター)の制作 ・中間報告における進捗状況確認、講評、技術的な指導など ・最終発表における講評など	

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="4">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・デジタル化が進む地域産業や企業活動に対応できる人材を育成するため、動画制作を通じて実践的なIT活用能力を身に付けさせる
・商業科で培ったマーケティング、情報活用、表現力等の学習内容を、動画制作という具体的なアウトプットに結び付け、学びの定着を図る
・IT・映像・デジタルコンテンツ分野の仕事内容や必要なスキルへの理解を深め、進路意識を高める
・企画立案から制作、発表までの一連のプロセスを経験することで、課題発見力、計画力、実行力を育成する</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・現場で求められる動画構成、編集技術、著作権・情報モラル等について、実務に即した指導を行う
・役割分担（企画・撮影・編集・発表等）を明確にし、協働的な学習を通じてコミュニケーション力や責任感を育成する
・制作物の発表機会を設けるとともに、制作過程や工夫点を振り返ることで、学習成果を可視化し次の学びにつなげる</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><td></td><td colspan="2">中長期連携講座前</td><td>実施期間中</td><td>実施後</td></tr>
<tr><td>日程</td><td>３～４ヶ月前
打合せ１</td><td>1～2週間前
打合せ２</td><td>随時</td><td>1週間後</td></tr>
<tr><td>確認事項</td><td>・実施日
・テーマ
・教室
・使用機器
・事前アンケート要否
・中間発表・成果発表</td><td>・構成
・評価観点
・指導ポイント</td><td>・理解度
・習熟度
・課題提出状況
・スケジュール</td><td>・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>準備物</td><td></td><td>・事前アンケート</td><td>・教材
・フィードバック</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・中長期連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校との確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ・担当者）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・外部支援講師（追加支援）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・評価観点・指導ポイント
・中間発表・成果発表の実施有無
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）</td></tr>
<tr><td>実施期間中の運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保等）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度・習熟度・課題提出状況のチェック）
・中間発表会・成果発表会</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理
・学内への成果報告</td></tr>
</table>

高専連携事業　自動車整備分野 高校1年生用カリキュラム

主な想定対象校：高等学校（工業科：自動車工学科）

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜自動車整備分野の目標＞

・職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う
・自動車の構造と機能に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる

＜１年生の目標＞

・自動車の発明と進歩、自動車産業と社会とのかかわり及び自動車と人間生活とのかかわりについて理解する
・動力の発生、動力の伝達、自動車の操作装置、材料の性質などについて理解する
・技術者に求められる倫理観や責任について理解し、ものづくりに関する確かな知識や技術などに裏付けられた思考力、判断力、表現力等を養う

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「実習」及び「自動車工学」
コマ数	最大15コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定。
指導方法	自動車および自動車を構成する各装置の構造と機能について、基礎・基本を理解し、現物に触れ、体験することで知識が定着するよう指導・支援をする ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する。
教材	授業担当者作成の教材または高校1年生用のモデル教材を活用する。

＜2年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	実習	13	【実習】車の魅力・楽しさ	○	◎	◎	◎	◎	＊◎主担 ○支援
	自動車工学	2	【座学】自動車整備士とは（職業理解）	○	◎		◎		

＜学習内容例＞

	テーマ	内容
実習	自動車とは	実車を活用した車の進化、車の駆動方式の理解
	運転の楽しさ	シュミレーター／カート等を活用して体感
	車、電気の基本／これからの車	電動ラジコンを使用した電気自動車の基本理解、実車を活用した自動運転や駐車アシスト等の理解
座学	自動車整備士とは（職業理解）	自動車の仕事、自動車整備士の役割
	自動車整備士とは（職業理解）	自動車整備をめぐる社会の動き、自動車整備業界の動向

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td></td><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・実車や体験型教材を活用し、自動車の魅力や楽しさを実感させることで、今後の専門学習への意欲を高める
・駆動方式、電動化、自動運転支援技術などに触れ、自動車技術が進化し続けていることを理解させる
・自動車整備士の役割や仕事の内容を学び、将来の職業としての理解と関心を育成する
・実習での体感的な学びと座学での整理を組み合わせ、自動車整備を学ぶ意義を早期に認識させる</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・難解な理論に偏らず、見て・触れて・感じる活動を中心に据え、理解しやすい内容とする
・実車、シミュレーター、カート、電動ラジコンなど多様な教材を用い、自動車技術を体感的に理解させる
・駆動方式や電気の基礎と、自動運転・駐車支援などの先進技術を結び付けて説明し、学びの広がりを持たせる
・実習で得た気づきを座学で整理し、自動車整備士の社会的役割や業界動向と結び付ける
・授業の振り返りを通じて、「なぜ自動車整備を学ぶのか」「どんな整備士を目指したいか」を考えさせる</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><th></th><th colspan="2">中長期連携講座前</th><th>実施期間中</th><th>実施後</th></tr>
<tr><td rowspan="2">日程</td><td>3～4ヶ月前</td><td>1～2週間前</td><td>随時</td><td rowspan="2">1週間後</td></tr>
<tr><td>打合せ1</td><td>打合せ2</td><td></td></tr>
<tr><td>確認事項</td><td>・実施日
・テーマ
・教室
・使用機器
・事前アンケート要否
・中間発表・成果発表</td><td>・構成
・評価観点
・指導ポイント
・安全面の確保・準備物
・搬入する機材</td><td>・理解度
・習熟度
・課題提出状況
・スケジュール
・機材の搬入・撤去</td><td>・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>準備物</td><td></td><td>・事前アンケート</td><td>・教材
・フィードバック</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・中長期連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校・企業との確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ、担当者）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・外部支援講師（追加支援）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・評価観点・指導ポイント
・中間発表・成果発表の実施有無
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）</td></tr>
<tr><td>実施期間中の運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保等）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度・習熟度・課題提出状況のチェック）
・中間発表会・成果発表会</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理
・学内への成果報告</td></tr>
</table>

高専連携事業　自動車整備分野（自動車工学科対象） 高校2年生用カリキュラム

主な想定対象校：工科高校

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜自動車整備分野の目標＞

・自動車の構造と機能に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる
・職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

＜2年生の目標＞

・自動車の電気装置の原理と構造及び機能、自動車の安全確保及び環境保全に関する技術について理解する
・自動車産業について体系的・系統的に理解する
・学習を通して身につけた様々な知識、技術などを活用し、地域や社会が健全で持続的に発展するよう、広い視野から工業に関する諸課題を発見する

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「実習」及び「自動車工学」
コマ数	最大15コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定。
指導方法	・現物、点検作業実技等を見て、事象をイメージし、理解を深められるよう指導・支援をする ・自動車について法規と整備の目的を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につけるよう指導・支援する ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校2年生用のモデル教材を活用する

＜2年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	実習	10	【実習】自動車整備業界についての理解	○	◎	◎	◎	◎	＊◎主担 ○支援
	自動車工学	2	【座学】自動車整備士の職業意識　自動車整備士に必要な能力	○	◎		◎		

＜学習内容例＞

	テーマ	内容
実習	自動車整備	予約・受付、車検、故障診断の現場見学
	自動車板金、部品共販、L&F（産業車両）	板金の現場見学、部品の供給、産業車両の販売・整備の現場見学
座学	自動車整備士の職業意識	社会的責任を担う自動車整備士
	自動車整備士に必要な能力	専門職としての自動車整備士　自動車整備士の視点

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="4">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・地域社会に不可欠な自動車整備の現場を学ぶことで、安全・安心なモビリティ社会を支える人材を育成する
・車検・故障診断・板金・部品供給・産業車両整備など、多様な業務を知ることで、自動車整備士の役割を体系的に理解させる
・車検・故障診断・板金・部品供給・産業車両整備など、多様な業務を知ることで、自動車整備士の役割を体系的に理解させる
・社会的責任や専門職としての視点を学ぶことで、技術だけでなく責任感と倫理観を備えた整備士の育成を目指す</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・現場見学による体験と、座学による整理・意味づけを組み合わせ、理解を深める構成とする
・予約・受付から整備、車検、故障診断までの流れを実際に見ることで、業務全体を俯瞰的に理解させる
・板金、部品供給、産業車両の販売・整備など、通常の実習では触れにくい分野を見学し、進路の視野を広げる</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><th></th><th colspan="2">中長期連携講座前</th><th>実施期間中</th><th>実施後</th></tr>
<tr><td>日程</td><td>３～４ヶ月前
打合せ１</td><td>1～2週間前
打合せ２</td><td>随時</td><td>1週間後</td></tr>
<tr><td rowspan="6">確認事項</td><td>・実施日</td><td>・構成</td><td>・理解度</td><td rowspan="6">・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>・テーマ</td><td>・評価観点</td><td>・習熟度</td></tr>
<tr><td>・教室</td><td>・指導ポイント</td><td>・課題提出状況</td></tr>
<tr><td>・使用機器</td><td>・安全面の確保・準備物</td><td>・スケジュール</td></tr>
<tr><td>・事前アンケート要否</td><td>・搬入する機材</td><td>・機材の搬入・撤去</td></tr>
<tr><td>・中間発表・成果発表</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>準備物</td><td></td><td>・事前アンケート</td><td>・教材
・フィードバック</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・中長期連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校・企業との
確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ、担当者）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・外部支援講師（追加支援）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・評価観点・指導ポイント
・中間発表・成果発表の実施有無
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）</td></tr>
<tr><td>実施期間中の
運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保等）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度・習熟度・課題提出状況のチェック）
・中間発表会・成果発表会</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理
・学内への成果報告</td></tr>
</table>

高専連携事業　自動車整備分野 高校3年生用カリキュラム

主な想定対象校：高等学校（工業科：自動車工学科）

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜自動車整備分野の目標＞

・自動車の構造と機能に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる
・職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

＜3年生の目標＞

・工業技術が現代社会で果たす意義と役割を踏まえ、ものづくりを通して社会に貢献する意識などを育む
・専門職業人としてキャリアアップしていく際の基盤となるプロフェッショナリズムに対する意識を高める

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「実習」及び「自動車工学」
コマ数	最大6コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定。
指導方法	工業技術について主体的に興味・関心を持ち、広い視野から思考し、社会の発展に役立つ技術を積極的に学ぶ態度を身につけるよう指導・支援をする ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する。
教材	授業担当者作成の教材または高校3年生用のモデル教材を活用する。

＜3年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	実習	5	【実習】資格・技術	○	◎	◎	◎	◎	*◎主担 ○支援
	自動車工学	1	【座学】自動車整備士に必要な資格	○	◎		◎		

＜学習内容例＞

	テーマ	内容
実習	資格・技術	自動車整備士に必要な資格及び技術力/ピットクルーとの座談会
座学	自動車整備士に必要な資格	自動車整備士の資格・等級・役職/整備士としての人生設計（具体的に決めた行動計画）

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバランスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・自動車整備士に必要な資格や技術力について体系的に学び、専門職としての自覚と責任意識を高める
・資格と現場で求められる技術力・役割との関係を理解し、資格取得の意義を明確にする
・ピットクルーとの座談会を通じて、現場で活躍する整備士の実体験や考え方に触れ、職業理解を深める
・卒業後を見据え、自身の将来像を具体的に描き、主体的にキャリアを築く意識を育成する</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・技術・資格・キャリアを総合的に整理し、卒業後に直結する内容に重点を置く
・実習で資格・技術の実態を学び、座学で制度・等級・役割を整理することで、理解を定着させる
・備士としてのキャリアパスを踏まえ、具体的な行動計画を立てさせることで、将来への主体性を育てる</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><th></th><th colspan="2">中長期連携講座前</th><th>実施期間中</th><th>実施後</th></tr>
<tr><td>日程</td><td>３～４ヶ月前
打合せ１</td><td>1～2週間前
打合せ２</td><td>随時</td><td>1週間後</td></tr>
<tr><td>確認事項</td><td>・実施日
・テーマ
・教室
・使用機器
・事前アンケート要否
・中間発表・成果発表</td><td>・構成
・評価観点
・指導ポイント
・安全面の確保・準備物
・搬入する機材</td><td>・理解度
・習熟度
・課題提出状況
・スケジュール
・機材の搬入・撤去</td><td>・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>準備物</td><td></td><td>・事前アンケート</td><td>・教材
・フィードバック</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・中長期連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校・企業との
確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ、担当者）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・外部支援講師（追加支援）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・評価観点・指導ポイント
・中間発表・成果発表の実施有無
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）</td></tr>
<tr><td>実施期間中の
運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保等）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度・習熟度・課題提出状況のチェック）
・中間発表会・成果発表会</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理
・学内への成果報告</td></tr>
</table>

高専連携事業　グローバル分野 高校1年生用カリキュラム

主な想定対象校：高等学校（普通科）

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

各機関の役割	〈高等学校〉
	・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する ・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する ・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する
	＜専門学校＞
	・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する ・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える ・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う
	＜企業等＞
	・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する ・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する ・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する ・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する

＜グローバル分野の目標＞

多様な文化や価値観を理解しながら、円滑にコミュニケーションできる能力を育成するとともに、与えられた課題に対してチームのメンバーと協働することを通じて、主体的に課題を解決する力などを養う

＜１年生の目標＞

・将来の職業選択に向けて、職業に関する基礎知識、職業意識や社会人となるための心構えを涵養し、能動的に学習する姿勢を育む
・専門職業人としてキャリアアップを目指す際に基盤となる人間力・社会人の基礎的能力を身につける

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「総合的な探究の時間」及び「情報Ⅰ」
コマ数	最大30コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定
指導方法	各種の講話を通じて、興味・関心のある職業や職業人について知り、また、社会と個人の関係、自らの在り方や生き方を考えることができるよう指導・支援する ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校１年生用のモデル教材を活用する

＜1年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	総探 / 情報Ⅰ	7	キャリア基礎	○	◎		◎		＊◎主担 ○支援
	総探 / 情報Ⅰ	12	職業人講話	○		◎		◎	
	情報Ⅰ	10	動画作成	◎	◎		◎		
	情報Ⅰ	1	振り返り	◎					

＜学習内容例＞

テーマ	内容
キャリア基礎	オリエンテーション／コミュニケーション／マナー／表現方法
職業人講話	職業人講話／振り返り
映像制作	コンセプト決め／撮影・素材収集／映像編集／発表会
振り返り	年間通しての振り返り

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・高校入学初期にキャリア基礎や職業人の話に触れることで、将来や進路について主体的に考える土台を形成する
・コミュニケーション、マナー、表現方法などを学び、社会や学習の場で求められる基本的な力を身に付ける
・職業人講話を通じて、地域に根ざした多様な仕事や専門分野を知り、視野を広げる</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・キャリア基礎で土台をつくり、職業人講話で視野を広げ、映像制作で表現につなげる流れを重視する
・ワークや意見交換、発表を取り入れ、生徒の主体性を引き出す
・専門分野の知見を取り入れ、実社会につながる具体例を用いて学習の理解を深める
・映像制作においては、コンセプト設計から撮影・編集・発表までを体験させ、考えを分かりやすく伝える力を養う</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><td></td><td colspan="2">講座前</td><td>実施期間中</td><td>実施後</td></tr>
<tr><td rowspan="2">日程</td><td>3～4ヶ月前</td><td>1～2週間前</td><td>当日</td><td rowspan="2">1週間後</td></tr>
<tr><td>打合せ１</td><td>打合せ２</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">確認事項</td><td>・実施日</td><td>・構成</td><td></td><td rowspan="5">・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>・テーマ</td><td>・評価観点</td><td></td></tr>
<tr><td>・教室</td><td>・指導ポイント</td><td></td></tr>
<tr><td>・使用機器</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・事前アンケート要否確認</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">準備物</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">・事前アンケート</td><td>・教材</td><td rowspan="2">・授業後アンケート</td></tr>
<tr><td>・フィードバック</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校・企業との確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・評価観点
・指導ポイント
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）
・講師駐車場・控室</td></tr>
<tr><td>実施期間中の運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保など）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度チェック）</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理</td></tr>
</table>

高専連携事業　グローバル分野 高校2年生用カリキュラム

主な想定対象校：高等学校（普通科）

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜グローバル分野の目標＞

多様な文化や価値観を理解しながら、円滑にコミュニケーションできる能力を育成するとともに、与えられた課題に対してチームのメンバーと協働することを通じて、主体的に課題を解決する力などを養う

＜2年生の目標＞

・将来の職業選択に向けて、学習活動を通して勤労観・職業観を育成する
・自己の職業的な能力適性を理解し、卒業後の進路について多面的・多角的に情報を収集し、検討する

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「総合的な探究の時間」
コマ数	最大13コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定
指導方法	進路希望・志望別グループ別に職業についての理解を深め、「学ぶこと」と将来の生き方や職業選択を結びつけて考えられるよう指導・支援をする ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校2年生用のモデル教材を活用する

＜2年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	総探	1	チーム＆テーマ決め	○					＊◎主担 ○支援
	総探	1	マナー教育	○	◎		◎		
	総探	1	事前調べ学習	◎			○		
	ー	5	企業訪問	○	○	◎	◎	◎	
	総探	4	振り返り①、②	◎					
	総探	2	発表会	◎	○	○	◎	◎	
	総探	2	進路選択に関する講話	○	◎		◎		

＜学習内容例＞

テーマ	内容
チーム＆テーマ決め	チームで企業訪問を通したテーマを決定
マナー教育	企業訪問に関するマナー
事前調べ学習	訪問先に関する事前調べ学習
企業訪問	関心分野の企業に訪問
振り返り①	企業訪問振り返り
振り返り②	まとめシート作成
発表会	企業訪問を通じて学習した内容を発表

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td></td><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>企業訪問の目的</td><td>・自己の理解を深め、職業の実像をつかみながら、望ましい勤労観、職業観を身に付ける
・学校の学習と職業との関係についての理解を促進する
・異世代間も含めたコミュニケーション能力の向上を図る
・実際的な知識や技術を学び、社会的なルールやマナーを体得する
・地域や事業所に対する理解を深め、地元への愛着や誇りを持つ</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・進路希望・志望別に、進路実現を目指すための選択すべき事柄（職種・業種・学部・資格、内容等）について探索させる
・ワークシートや質問カード等により、重点項目や調査研究項目を整理させ、各種の記録媒体も活用できるよう工夫させる
・事前学習、体験活動等を通じた学びの成果を、全体発表会として実施する</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><td></td><td colspan="3">企業訪問前</td><td>当日</td><td>実施後</td></tr>
<tr><td>日程</td><td>５ヶ月前
打合せ１</td><td>２ヶ月前
打合せ２</td><td>１週間前
事前調べ学習</td><td>当日</td><td>１ヶ月後
成果発表</td></tr>
<tr><td>確認事項</td><td>・実施日
・関心分野アンケート
・テーマ
・生徒数
・移動手段</td><td>・スケジュール構成
・昼食場所
・体調不良者待機室
・個人端末使用可否
・引率教員
・緊急連絡先</td><td>・GP分け
・注意事項
・持ち物</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>準備物</td><td></td><td></td><td>・ワークシート１
・名札
・ネームペン</td><td>・教材（企業）
・ワークシート２
・筆記用具
・記録用端末</td><td>・発表用テンプレ―ト
・写真</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・企業訪問の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・訪問先企業との打ち合わせ日程調整
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（希望制か全員参加か）
・関心分野・テーマのアンケート
・訪問予定生徒数
・移動手段の確認・手配（バス等）
・体調不良者・遅刻等の対応
・引率教員
・アクセス・駐車場・待ち合わせ場所</td></tr>
<tr><td>訪問先企業との調整</td><td>・受け入れ担当者の確定
・担当者との事前打ち合わせ（実施案）
・ルール・マナーの共有（服装・持ち物・写真撮影等の注意事項）
・事前アンケート・事前課題・事前調べ学習・質問などの準備
・昼食場所の確認・手配
・施設利用料の有無
・体調不良者等の待機室
・端末使用・持込可否
・当日の緊急連絡先（訪問企業・専門学校・ドライバー）</td></tr>
<tr><td>企業訪問日の運営</td><td>・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・タイムスケジュール管理
・会場準備（座席配置、設備チェック）
・進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（声かけ等）</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・企業訪問後アンケート
・訪問先企業との振り返り会議
（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・成果発表会の実施
・次年度に向けた課題の整理</td></tr>
</table>

高専連携事業　グローバル分野 高校3年生用カリキュラム

主な想定対象校：高等学校（普通科）

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜グローバル分野の目標＞

多様な文化や価値観を理解しながら、円滑にコミュニケーションできる能力を育成するとともに、与えられた課題に対してチームのメンバーと協働することを通じて、主体的に課題を解決する力などを養う

＜3年生の目標＞

・自分の能力・適性を的確に判断し、自らの将来設計に基づいて、高校卒業後の進路について決定する
・進路実現のために今取り組むべき課題は何かを考え、実行に移す

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「総合的な探究の時間」
コマ数	最大9コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定
指導方法	進路実現を目指すために選択すべき事柄（職種・業種・学部・学科・資格、内容等）について探索し、将来への展望、取り組むべき課題等について考察し、自身で進路選択ができるよう指導・支援をする ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校3年生用のモデル教材を活用する

＜3年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	総探	2	進路選択に関する専門学校生講話	○	◎		◎		＊◎主担 ○支援
	総探	1	プレゼンテーション資料作成	◎					
	総探	2	プレゼンテーション 資料作成	◎					
	総探	2	プレゼンテーション	◎	○				
	総探	2	マナー講座	○	◎		◎		
	総探	1	合格体験発表	◎	○	○	◎	◎	

＜学習内容例＞

テーマ	内容
進路選択に関する講話	先輩（専門学校生）による進路選択に関する講話
プレゼンテーション資料作成	各自プレゼンテーション資料作成（手書き）
プレゼンテーション資料作成	各自プレゼンテーション資料作成（PPT）
発表	PowerPointで作成したプレゼンテーション資料を投影しながら発表
マナー講座	面接用マナー講座（希望者）
合格体験発表会	個人プレゼンから選抜（1、2年生鑑賞）

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td></td><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・現役専門学校生の体験談を通じて多様な進路の在り方を知り、自分自身で進路を考え、決定する力を育成する
・専門学校での学びや学生生活、進路選択の背景を具体的に知ることで、進学・就職への理解を深める
・自身の進路について言語化・可視化し、他者に伝えることで、自己理解を深めるとともに表現力を高める
・情報収集・整理・表現・発表のプロセスを通じて、「総合的な探究の時間」で培った力を進路選択に活用する</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・進路理由、学びたい内容、将来像などを整理し、根拠を持って説明できる構成とする
・進路発表をゴールに設定することで、考えを曖昧にせず、決断の言語化と覚悟の形成につなげる
・プレゼン内容と面接で問われる内容を連動させ、進学・就職に直結する実践的な指導を行う
・年齢の近い先輩の声を聞くことで、進路を自分事として捉えやすくする
・講話・発表・マナー講座を振り返り、自身の進路選択を最終確認する時間を確保する</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><td></td><td colspan="2">講座前</td><td>実施期間中</td><td>実施後</td></tr>
<tr><td rowspan="2">日程</td><td>3～4ヶ月前</td><td>1～2週間前</td><td>当日</td><td rowspan="2">1週間後</td></tr>
<tr><td>打合せ1</td><td>打合せ2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">確認事項</td><td>・実施日</td><td>・構成</td><td></td><td rowspan="5">・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>・テーマ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・教室</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・使用機器</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・事前アンケート要否確認</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">準備物</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">・事前アンケート</td><td>・教材</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
<tr><td>・フィードバック</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校・企業との確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）
・講師駐車場・控室</td></tr>
<tr><td>実施期間中の運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保など）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度チェック）</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理</td></tr>
</table>

高専連携事業　情報技術分野 高校1年生用カリキュラム

主な想定対象校：高等学校（商業科：情報ビジネス科）

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜情報技術分野の目標＞

情報技術の実務における課題を発見し、創造的に解決するなど、情報技術を通じて、地域産業をはじめとする経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身につける

＜1年生の目標＞

・マナー実践を通して自己の行動を振り返り、より良い態度や表現を意識的に身に付けようとする姿勢を育成する
・ビジネスマナーが商業分野の学習や将来の進路（就職・進学）につながる基礎であることを理解する
・挨拶・お辞儀・身だしなみ・立ち居振る舞いが、相手との信頼関係や印象形成に与える影響を理解する
・丁寧な言葉遣いや敬意を表す表現を学び、相手や場面に応じたコミュニケーションの基礎を習得する

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「ビジネス・コミュニケーション」
コマ数	最大3コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定
指導方法	情報収集、整理、分析、表現に関する思考力、判断力、表現力を身につける学習活動において、適切なデータを収集し、適切な方法で整理・分析・表現できるよう指導・支援をする ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校2年生用のモデル教材を活用する

＜2年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	ビジネス・コミュニケーション	1	挨拶、お辞儀、身だしなみ	○	◎		◎		＊◎主担 ○支援 ※基本的には高等学校教員が進行し、専門的な知識・知見が必要な際に、専門学校や企業等が参加
	ビジネス・コミュニケーション	3	歩き方、座り方、言葉遣い	○	◎		◎		

＜学習内容例＞

テーマ	内容
ビジネスマナー１	挨拶、お辞儀、身だしなみ
ビジネスマナー２	歩き方、座り方、言葉遣

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td></td><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・ビジネスマナーが商業分野の学習や将来の進路に直結する重要な要素であることを理解させる
・働く場面を想定したマナー学習を通じて、社会の一員としての自覚や責任意識を養う
・挨拶や身だしなみ、立ち居振る舞いなど、社会で求められる基本的なマナーを理解させ、ビジネスマナー教育の基礎を築く
・相手を意識した態度や言葉遣いを学ぶことで、良好な人間関係を構築するための基礎的なコミュニケーション力を育成する</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・現場経験に基づく具体例を取り入れ、学習内容の現実性と説得力を高める
・見て学ぶだけでなく、実際に動作や発声を行うことで、マナーを体感的に身に付けさせる
・難解な理論に偏らず、挨拶・所作・言葉遣いといった基本事項を丁寧に指導する
・将来の職場を想定し、実生活に結び付けて理解できるようにする</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><th></th><th colspan="2">中長期連携講座前</th><th>実施期間中</th><th>実施後</th></tr>
<tr><td rowspan="2">日程</td><td>３～４ヶ月前</td><td>1～2週間前</td><td>随時</td><td rowspan="2">1週間後</td></tr>
<tr><td>打合せ１</td><td>打合せ２</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">確認事項</td><td>・実施日</td><td>・構成</td><td>・理解度</td><td rowspan="6">・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>・テーマ</td><td></td><td>・習熟度</td></tr>
<tr><td>・教室</td><td></td><td>・課題提出状況</td></tr>
<tr><td>・使用機器</td><td></td><td>・スケジュール</td></tr>
<tr><td>・事前アンケート要否</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・中間発表・成果発表</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">準備物</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">・事前アンケート</td><td>・教材</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
<tr><td>・フィードバック</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・出前講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校・企業との確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ・職業人講話担当者）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・外部支援講師（追加支援）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題
・事前調べ学習
・中間発表・成果発表の実施有無
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）</td></tr>
<tr><td>実施期間中の運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保等）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度・習熟度・課題提出状況のチェック）</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理
・学内への成果報告</td></tr>
</table>

高専連携事業　情報技術分野 高校2年生用カリキュラム

主な想定対象校：高等学校（商業科：情報ビジネス科）

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜情報技術分野の目標＞

情報技術の実務における課題を発見し、創造的に解決するなど、情報技術を通じて、地域産業をはじめとする経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身につける

＜2年生の目標＞

・各種メディアの情報を活用するなどして経済社会の動向を捉え、地域や産業界等と連携して、具体的な実務について理解を深める
・地域の商業に関し、適切な課題を設定し、具体的な事例について多面的・多角的に分析し、主体的かつ協働的に取り組む力を育む
・表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行う力を養う

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「総合実践」
コマ数	最大68コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定
指導方法	情報収集、整理、分析、表現に関する思考力、判断力、表現力を身につける学習活動において、適切なデータを収集し、適切な方法で整理・分析・表現できるよう指導・支援をする ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校2年生用のモデル教材を活用する

＜2年生段階実施項目一覧＞

				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	
実施項目	総合実践	4	職業人講話	○				◎	＊◎主担 ○支援 ※基本的には高等学校教員が進行し、専門的な知識・知見が必要な際に、専門学校や企業等が参加
	総合実践	60	データ分析※	○	◎		◎		
	総合実践	4	職業人講話	○	◎				

＜学習内容例＞

テーマ	内容
職業人講話	IT系企業による講話/Excelを活用したワークショップ
データ分析	身近な課題解決に向けたグループワーク（課題に関する意識調査を実施し集計し、Excelを活用した分析を行い、課題解決に向けたプレゼンテーションを実施）
職業人講話	将来の進路選択(高校3年生での選択科目)につながる講話

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td></td><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・身近な課題を題材にデータを収集・分析・活用する学習を通じて、地域や企業で求められる実践的なデータ活用能力を育成する
・課題設定から調査、分析、提案、発表までの一連のプロセスを経験することで、思考力・判断力・表現力を総合的に高める
・職業人講話を前後に配置することで、学習内容と実社会での仕事を結び付け、IT・データ分野への具体的な進路意識を醸成する
・Excelを活用した本格的なデータ分析やプレゼンテーションを行うことで、「総合実践」における学びの質を高める</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・課題設定→調査設計→意識調査実施→集計→分析→考察→提案→発表という流れを段階的に進め、学びを深める
・関数、グラフ、集計方法などを用い、分析の正確性と可視化を重視した実践的指導を行う
・分析結果と課題解決提案を発表する機会を設け、表現力や説得力を含めた総合的な評価を行う</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><th></th><th colspan="2">中長期連携講座前</th><th>実施期間中</th><th>実施後</th></tr>
<tr><td rowspan="2">日程</td><td>3～4ヶ月前</td><td>1～2週間前</td><td>随時</td><td rowspan="2">1週間後</td></tr>
<tr><td>打合せ1</td><td>打合せ2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">確認事項</td><td>・実施日</td><td>・構成</td><td>・理解度</td><td rowspan="6">・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>・テーマ</td><td>・評価観点</td><td>・習熟度</td></tr>
<tr><td>・教室</td><td>・指導ポイント</td><td>・課題提出状況</td></tr>
<tr><td>・使用機器</td><td></td><td>・スケジュール</td></tr>
<tr><td>・事前アンケート要否</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>・中間発表・成果発表</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">準備物</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">・事前アンケート</td><td>・教材</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
<tr><td>・フィードバック</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・中長期連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校・企業との確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ・職業人講話担当者）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・外部支援講師（追加支援）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・評価観点・指導ポイント
・中間発表・成果発表の実施有無
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）</td></tr>
<tr><td>実施期間中の運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保等）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度・習熟度・課題提出状況のチェック）
・中間発表会・成果発表会</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理
・学内への成果報告</td></tr>
</table>

高専連携事業　情報技術分野 高校3年生用カリキュラム

主な想定対象校：高等学校（商業科：情報ビジネス科）

＜高専連携事業における教育目標＞

・地域課題や地域政策を反映したカリキュラムの開講を通して、実社会や日常生活、地域社会との結びつきを深める
・地域産業や地域活動への参画が、地域振興にいかに重要かを体験的に学習できる機会を提供する
・社会経済活動への参与の意義を見出す機会を提供する
・それぞれの資源や強みを、生徒の学びや進路選択のあり方にプラスの影響を与えられるよう、各関係機関・団体が体系的、かつ継続的に参画する

＜育成を目指す資質・能力＞

・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力
・学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求の活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方、生き方を思考できる資質や能力
・各教科・科目及び特別活動で身につけた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において活かし、それらが総合的に働くようにする資質や能力

＜情報技術分野の目標＞

情報技術の実務における課題を発見し、創造的に解決するなど、情報技術を通じて、地域産業をはじめとする経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身につける

＜3年生の目標＞

・Web の活用や現状の把握を通して、必要とする情報を効率よく、正確に検索・収集する情報収集能力を養う
・Web ページの構造の理解と Web ページを作成するために必要な言語の理解を通して得られる情報発信能力を養う
・情報発信に関して、個人の責任・プライバシー・著作権等への配慮ができる情報モラルとアクセシビリティの意識を身につける

＜教育内容と方法＞

連携対象科目	「ネットワーク活用」
コマ数	最大37コマ程度　※各校の実施可能コマ数などに応じて実施されることを想定
指導方法	PBL型の学習を取り入れ、アイデアの創出、計画立案、実現等を生徒自身に遂行させることで、学習意欲、知識の活用能力、計画立案・遂行能力、ディベート能力、プレゼンテーション能力が向上するよう指導・支援をする ※外部協力者（専門学校や企業など）が参加の場合には、TTでの実施を想定する
教材	授業担当者作成の教材または高校3年生用のモデル教材を活用する

＜3年生段階実施項目一覧＞				講師			連携		備考
学習活動：	科目	コマ数	テーマ	高校	専門学校	企業他	専門学校	企業他	＊◎主担 〇支援 ※基本的には高等学校教員が進行し、専門的な知識・知見が必要な際に、専門学校や企業等が参加
実施項目	ネットワーク活用	37	課題解決型学習【PBL】	〇	◎		◎		

テーマ	内容	
課題解決型学習【PBL】	学校のHPを魅力化　現状の分析～企画の考案～プレゼンテーション	

＜必要機材等＞

・タブレット端末　・プロジェクター　・PC　・HDMI接続機器　　など

<table>
<tr><td rowspan="5">各機関の役割</td><td>〈高等学校〉</td></tr>
<tr><td>・年間指導計画の立案とともに、科目内でのキャリア教育の観点を明確化する
・専門学校や企業などの外部協力者への依頼事項（授業時間や内容など）を整理する
・授業時などにおける生徒の様子や状況を協力者に共有する</td></tr>
<tr><td>＜専門学校＞</td></tr>
<tr><td>・地域の理解・評価を得ながら、地域における質の高い職業教育機関として教育活動を展開する
・地域政策や人材の需要の変化に対応したコースを開講し、地域の人材ニーズに応える
・出前講座をはじめとした、進路選択前におけるキャリア教育・職業教育により、多様なキャリアパスに対応した教育・指導を行う</td></tr>
<tr><td>＜企業等＞</td></tr>
<tr><td></td><td>・絶えず変化する環境への適応力や、問題解決能力の向上の重要性を指導する
・基礎知識と技術的・科学的素養、リーダーシップやマネジメントなどのヒューマンスキルの重要性を指導する
・技術的な面だけではなく、視点の広がり、柔軟性、研究活動などでの仕事のまわし方等を含む体験的実習を実施する
・体験的実習やバラスンスの取れた情報提供を通じ、ミスマッチングを減らし人材の定着化を促進する</td></tr>
<tr><td>実施の目的</td><td>・ネットワークを活用した課題解決型学習を通じて、地域や組織の課題に主体的に取り組む実践的IT人材を育成する
・学校ホームページの魅力化を題材に、情報整理、構成力、デザイン視点を含めた効果的な情報発信力を高める
・現状分析に基づいて課題を明確化し、根拠をもって改善策を提案する力を育成する
・実社会を意識したPBLを実施することで、地域の専門的人材育成に資する教育モデルを構築する</td></tr>
<tr><td>実施のポイント</td><td>・アクセス動線、情報構造、利用者視点など、Webの特性を踏まえた分析手法を取り入れる
・Web制作・情報発信の現場で求められる視点や考え方を反映し、実践性の高い学習とする
・生徒自身が関わる学校の情報発信を題材とすることで、主体性と責任感を高める</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>中長期連携講座前</th><th></th><th>実施期間中</th><th>実施後</th></tr>
<tr><td>日程</td><td>3～4ヶ月前
打合せ1</td><td>1～2週間前
打合せ2</td><td>随時</td><td>1週間後</td></tr>
<tr><td>確認事項</td><td>・実施日
・テーマ
・教室
・使用機器
・事前アンケート要否
・中間発表・成果発表</td><td>・構成
・評価観点
・指導ポイント</td><td>・理解度
・習熟度
・課題提出状況
・スケジュール</td><td>・アンケート結果精査</td></tr>
<tr><td>準備物</td><td></td><td>・事前アンケート</td><td>・教材
・フィードバック</td><td>・授業後アンケート</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事前準備</td><td>・中長期連携講座の目的（どのような学びを提供するか、目標を明確にする）
・専門学校等との打ち合わせ日程調整
・カリキュラム内容の確認（授業の流れ、評価方法、成果物等）
・授業の形式決定（対面・オンライン・ハイブリッド）
・実施スケジュールの作成（時間割への組み込み、日程調整、予備日）
・予算の確認（交通費、教材費、講師謝礼等）
・生徒の募集・選抜方法の決定（選択制か全員参加か）</td></tr>
<tr><td>専門学校との確認・調整</td><td>・授業担当者の確定（専門学校側の講師・スタッフ）
・担当者との事前打ち合わせ（授業内容や役割分担の確認）
・外部支援講師（追加支援）
・連携授業のルール・マナーの共有（服装・持ち物・注意事項）
・事前課題・事前調べ学習
・評価観点・指導ポイント
・中間発表・成果発表の実施有無
・事前アンケート
・必要な教材・設備の確認（プロジェクター、PC等）</td></tr>
<tr><td>実施期間中の運営</td><td>・会場準備（座席配置、設備チェック）
・生徒の出欠管理（点呼、遅刻・欠席者対応）
・講師のアテンド（学校への案内、控室の確保等）
・授業の進行確認（予定通り進められるか、サポートが必要か）
・生徒のフォロー（質問対応、理解度・習熟度・課題提出状況のチェック）
・中間発表会・成果発表会</td></tr>
<tr><td>事後対応</td><td>・生徒の振り返り
・講座後アンケート
・講師・専門学校との振り返り会議（改善点・今後の継続に向けた話し合い）
・レポート・成果物の整理・発表
・次年度に向けた課題の整理
・学内への成果報告</td></tr>
</table>